

多くの人に愛される商店街へ

淀川区商店会連盟の横田会長と山本区長の対談が実現!
淀川区の商店街の“今”と“これから”について伺いました。

淀川区は、全国から大阪に来る方の玄関口

区長: 横田会長から見た淀川区はどんな街ですか?

会長: 淀川区は、全国から大阪に来る方の玄関口。十三は梅田よりも起点になる場所だと思っています。だからこそもっと商業スペースを確立していく必要があると感じます。淀川区は市内でも人口が2番目に多く、若い人が多く住んでいるというデータもあるので、若い人にアピールできる商店街であり続けたいと思っています。

若い人が多く訪れる商店街に

区長: 大阪市内に目を向けると、若い人や外国の方がたくさん商店街に訪れていますよね。淀川区でもそういう傾向はありますか?

会長: 残念ながら以前に比べると少し人の流れが減ったように思いますね。今は、黒門市場などミナミが元気で、モノを売るより、コトの時代。観光との関連性や、体験型イベントの需要が高まっています。淀川区でもできたら面白いなと考えているところです。若い方々が体験したいことや挑戦してみたいことを実現できる場所を提供できたらと思います。若い人が多く訪れる商店街にしたいですね。

地域、商店街、行政が一丸となって

区長: 新しい路線の計画など、淀川区の街も常に変化していますが、今後の商店街の展望などを教えてください。

会長: 交通機関の充実などは、淀川区に新たな人を呼び込む可能

性と、逆に人を流出させてしまう可能性の両方を秘めています。今まで以上に街一体となって盛り上げていかなければと考えています。これは私ひとりでは出来ません。地域、商店街、行政が一丸となって淀川区の未来を考えていきたいですね。

区長: 子育て世帯の支援に力を入れている淀川区。現在、核家族化が進み、子育てのアドバイスやお手伝いを必要としている保護者の方もおられます。商店街を中心として、地域とのつながりや親しみを持ってもらえたら素晴らしいですね。

会長: もっと工夫をして若い人に訪れてもらえる商店街をめざします。そのためにも、商店街をもっと知ってもらえるようにアピールの場を増やしていきたいですね。今年は久しぶりに区商連で区民まつりにも参加します。他の人がしたことがないことにどんどん挑戦していきたいです。

淀川区商店会連盟

1974年に淀川区の誕生と共に発足。地域に密着した親しみやすく、愛される商店街をめざし、優良店舗表彰や商店経営についての研修・講演会の開催、他都市商店街の視察など商店街の活性化に取り組んでいる。



▲淀川区商店会連盟横田会長(左)と山本区長

商店街へ行こう!

淀川区商店街MAP



※「大阪市小売商業地図」に掲載されている商店街の一覧